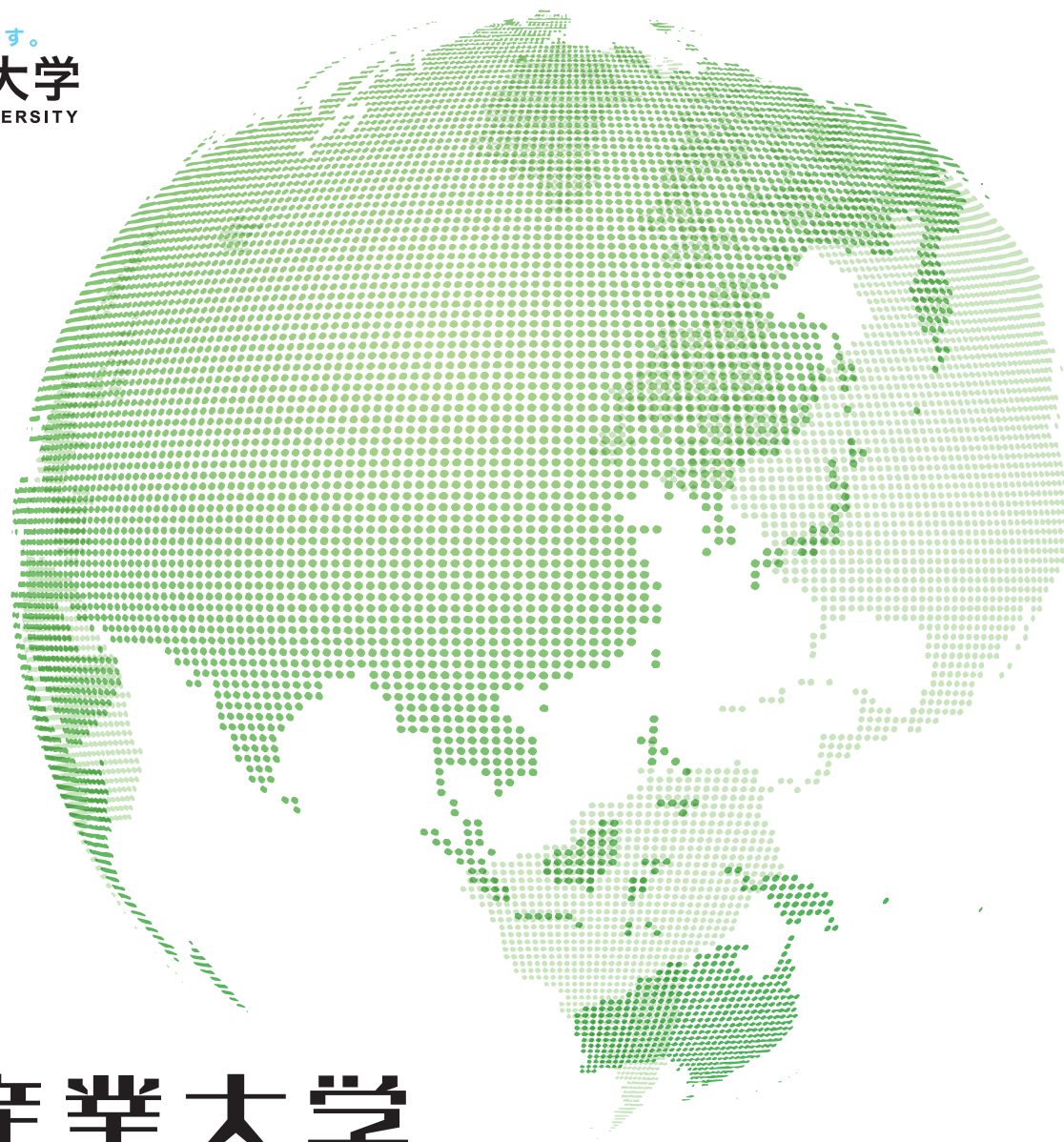




京都産業大学

世界問題研究所

ニュースレター

2026. 7 Vol.17

NEWS LETTER

CONTENTS

活動記録

(1) 「つながるクルマの情報セキュリティ」

情報理工学部 教授 井上 博之 2

(2) 「ロシア・ウクライナ戦争の影響による軍縮条約 の後退現象——新たな戦前？・戦間期？」

世界問題研究所長・法学部 教授 岩本 誠吾 3

(3) 世界問題研究所・上海社会科学院／国際ワーク ショップ「科学技術の進歩と人間社会 (2)」 4

【活動記録】

(1) 「つながるクルマの情報セキュリティ」

報告者	井上 博之（情報理工学部 教授）
開催場所	京都産業大学 12 号館 12404 教室＋オンライン（Teams）
開催日時	2025 年 5 月 19 日（月）13:15 ～ 14:45

研究会概要

世界問題研究所では、2025 年 5 月 19 日（月）に本年度第 2 回の定例研究会を実施した。講師として本学情報理工学部教授の井上博之先生をお迎えし、「つながるクルマの情報セキュリティ」と題してご講演をいただいた。

自動車単なる移動のための機械ではなく、多数のコンピュータを内蔵し、複雑な内部機構を制御しながら走行する高度で精密な機器であること、さらにはそれらを外部のネットワークと接続することでスマート化が推進されていることは、従来からニュース等で広く知られてきたところである。今回の井上先生のご講演は、こうした動向を支える情報工学上の技術のありようを、とりわけセキュリティの面から詳しくご紹介くださるものであった。

ご講演では、コネクティッドカーをめぐる情報

セキュリティ上の問題を概観したうえで、井上先生の研究室でのご研究の成果の紹介が行われた。紹介された実験動画では、外部から自動車の情報セキュリティを突破して内部機構に侵入し、なりすましの形で自動車の運転を乗っ取る様が生々しく映し出された。また、こうした急速な技術的発展を踏まえた今後の動向としてソフトウェアの重要性について解説があり、さらにはそれに対応するための国際的動向や若手育成の取組が紹介された。

ご講演後の質疑応答では、多様な質問が多数出されたが、そのいずれにも、井上先生には丁寧にご回答いただいた。専門外の者にとっても、自動車という身近な移動手段が、情報技術の面においてもいかに急速に発展を遂げているかを間近に学ぶことのできる貴重な機会となった。井上先生のご協力とご配慮にあらためて感謝申し上げたい。



報告中の井上教授



質疑応答の様子

【活動記録】

(2) 「ロシア・ウクライナ戦争の影響による 軍縮条約の後退現象——新たな戦前？・戦間期？」

報告者	岩本 誠吾（世界問題研究所長・法学部 教授）
開催場所	京都産業大学 5 号館 5401 教室＋オンライン（Teams）
開催日時	2025 年 6 月 25 日（水）15:00 ～ 17:00

研究会概要

世界問題研究所では、2025 年 6 月 25 日（水）に本年度第 3 回の定例研究会を実施した。岩本誠吾所長（法学部教授）が「ロシア・ウクライナ戦争の影響による軍縮条約の後退現象——新たな戦前？・戦間期？」と題して講演を行った。

はじめに、2014 年のロシアによるクリミア半島への侵攻以降、欧州諸国ではロシアの軍事的な脅威に対して、徴兵制復活や軍事費増額などの軍備増強の流れが強まっている現状について説明された。また、欧州におけるドイツの軍事的な存在感が大きくなっていることも指摘された。

こうした中で、対人地雷禁止条約から脱退する国が現れ、ウクライナによる条約違反事案の疑いがあるなど、対人地雷に対する法規制が衰退している。同様の問題は、クラスター弾条約についても言える。軍縮条約の後退現象は、安全保障環境

が悪化する中での国家の主権行使の結果でもあり、その背景には軍事大国が軍縮条約に未加盟だという現状がある。大国が参加しない軍縮体制は、「善人の手を縛るもの」であり、非加盟国が戦闘手段において優位になるという構造的な問題がある。通常兵器に関する軍縮条約が慣習法となっていない中では、軍事的必要性和人道的配慮との比較検討から各国が現実的に選択していく状況が続くのではないかとされた。

講演後の質疑応答では、イランの核開発をめぐる軍事衝突や、軍縮にまつわる慣習法の範囲、対人地雷の戦術的意義が復活した背景となっているウクライナ戦争の状況など、多様な観点からの質問が提起され、活発な議論が展開された。現下の国際情勢と軍縮をめぐる国際法的な課題について、認識を深める有意義な機会となった。



報告中の岩本教授



質疑応答の様子

【活動記録】

(3) 世界問題研究所・上海社会科学院 ／国際ワークショップ 「科学技術の進歩と人間社会（2）」

開催場所	上海社会科学院 本部 1 階 会議室 101 室
開催日時	2025 年 10 月 31 日（金）13:30 ～ 17:30

研究会概要

世界問題研究所は、本学の交流協定機関である上海社会科学院と共同で、2025 年 10 月 31 日に上海社会科学院において、「科学技術の進歩と人間社会」と題する国際ワークショップを開催した。当研究所では、2020 年度より「科学技術の発展と人類社会の変化」をテーマとして掲げ、文理融合・分野横断という視点から新たなアプローチを試み、様々な研究活動を行ってきた。今回の国際ワークショップの開催も、上記テーマに関連する研究活動の一環となる。

今回の国際ワークショップは上海社会科学院の本部にて開催され、開会にあたり、程福財研究員（上海社会科学院国際協力處處長）が司会を務め、干春暉教授（上海社会科学院常務副院長）および当研究所の耳野健二事務局長（本学現代社会学部教授）より挨拶が述べられた。その後、当研究所の中谷真憲所員（本学法学部教授）が司会を務める中、研究報告が 4 つのセッションに分かれて実施された。

最初のセッションでは、当研究所から耳野健二事務局長が「近代法理論における〈人間〉とは何か—その

歴史的基礎と現代への示唆—」をテーマに報告し、上海社会科学院から鄧少嶺副研究員が「法律家の理想的人格における保守主義の側面」について報告を行った。

続くセッションでは、当研究所から中井歩所員（本学法学部教授）が「日本の地方政府における政策評価とウェルビーイング」と題した報告を行い、上海社会科学院から鄧智団研究員が「国連の持続可能な開発目標に対する上海の審査」について報告した。



会場風景



記念品の贈呈



報告を行う耳野事務局長

さらに3つ目のセッションでは、当研究所から久保秀雄所員（本学法学部教授）が「科学の制度は『意図せざる結果』として自らの墓碑銘を用意するのか？」と題する報告を行い、上海社会科学院から周豊研究補佐員が「科学制度における失敗の価値」について報告した。

最後のセッションでは、当研究所から岑智偉所員（本学経済学部教授）が「『躺平』が中国大学生の就職に

与える影響」と題する報告を行い、上海社会科学院から裘晓蘭研究補佐員が「デジタル時代の上海青年の就職と生活様式」をテーマに報告を行った。

報告の後には、セッションごとに、指定討論者を中心に活発な質疑応答と討議が繰り広げられた。そして最後に、司会を務めた中谷所員から、各セッションや討議の全体を総括する閉会の挨拶が述べられた。

今回の国際ワークショップでは、法理論、公共政策、科学と社会、若者と労働といった広範な領域に及ぶテーマが取り上げられ、各テーマについて日中双方から報告が行われることで、より視野の広い包括的な視座から、科学技術の進展が社会制度や人間の生き方に及ぼす影響について考察を加えることが可能となった。

今後も、当研究所は「科学技術の進歩と人類社会の変化」に関する研究をさらに深化させるとともに、国際的な学术交流の発展にも寄与していく予定である。



報告を行う中井所員



報告を行う久保所員



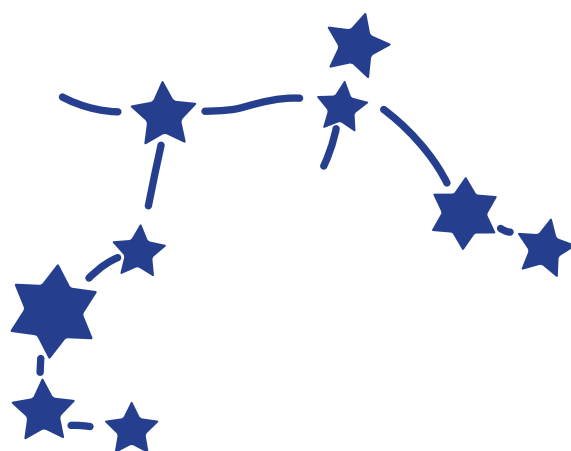
挨拶を行う中谷所員



報告を行う岑所員



記念撮影



当研究所の活動やニュースレターのバックナンバーはホームページにも掲載されています。

<https://www.kyoto-su.ac.jp/research/sekaimondai/>



京都産業大学世界問題研究所 ニュースレター 第17号 2026年7月

発行 京都産業大学世界問題研究所 京都市北区上賀茂本山 TEL (075) 705-1468

編集 京都産業大学世界問題研究所所員 久保 秀雄、荻野 晃大／同事務局 藤本 興子

印刷 中西印刷株式会社
